

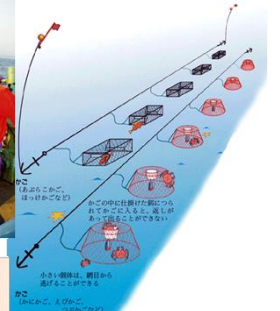
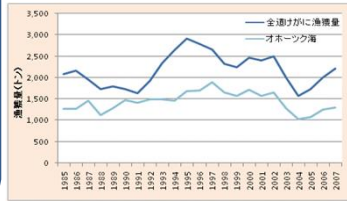
オホーツク海におけるケガニ資源管理の流れ

北海道におけるケガニの漁場



北海道におけるけがに漁業

- ・漁法は けがにかご (一部刺し網)
- ・甲長8cm以上の雄のみ漁獲
- ・近年の全道漁獲量は2千トン前後
そのうち半分以上をオホーツク海で漁獲
- ・許容漁獲量(北海道版TAC)を設定し管理
北海道ではケガニとベニズワイガニの一部だけ



「北海道の漁業図鑑」(北海道水産業改良普及職員協議会)から引用

・許容漁獲量

ケガニの許容漁獲量は、調査結果から水試が提示したABCを元に、行政と現地協議会の間で社会的経済的な条件を勘案して毎年決定される。

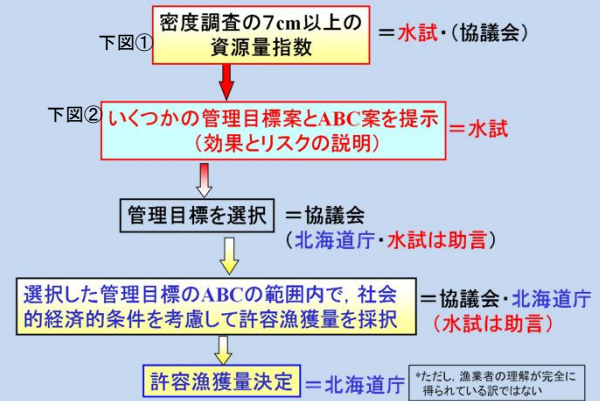
・ABC(Allowable Biological Catch)「生物学的許容漁獲量」

生物学的、非生物学的環境条件のもとで持続的に達成できる最大の漁獲量(最大持続生産量)を目指そうとする場合に生物学的に最も推奨できる漁獲量。

・TAC(Total Allowable Catch)「漁獲可能量」

資源管理のため、対象資源の漁獲できる総量を定めたもの。日本ではスケトウダラ・サンマなど7魚種がTACを設定し、資源管理を行っている。TACは基本的に国が設定する。

オホーツク海海域における許容漁獲量決定までの流れ



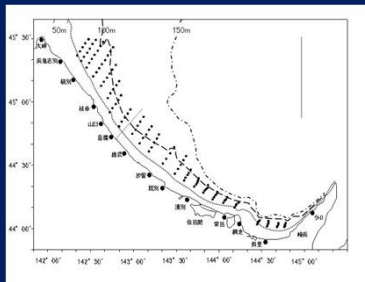
*ただし、漁業者の理解が完全に得られている訳ではない

①密度調査

毎年、年に1回調査(密度調査と呼ばれる)を行い、その結果翌年のABCを決定する。

調査はケガニの生息域をほぼ網羅した海域内で、かにかごを使って行われる。

調査で使うかにかごは、通常の漁業で使うかごより網の小さい物を使う。これは、小型のかにも同時に捕獲し、数年先の資源状態を考えるため。

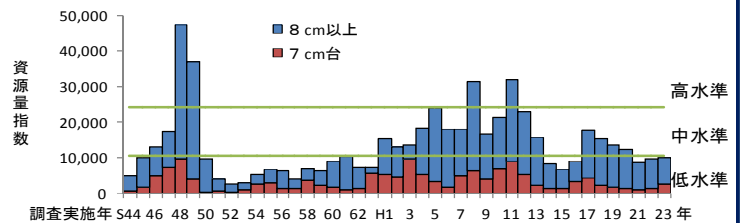


オホーツク海におけるケガニ資源密度調査の調査点(全部で116点)図



*イメージ画像です。

②調査結果による資源量指数の推定



密度調査による甲長7cm以上雄の資源量指数の経年変化

水試の役割:

密度調査結果を元にABCを求め、現地・行政に説明を行う

